京都駅南口・八条通 混雑を解消

観光バスに待機場所

京都駅南口の観光バスの混雑解消を目指す交通対策で、待機場所となる駐車スペース(京都市南区東九条)

2キロ南の市有地活用

京都市長方針 新方式導入へ

京都市議会は2日、本会議を再開し、一般質問を行った。門川大作市長は京都駅南口(八条口)で待機する観光バスの混雑を解消するため、近くにバスの待機場所を設置し、駅前の乗降場所に順次バスを向かわせる交通マネジメントシステムの導入を目指す考えを明らかにした。

京都駅南口の八条通には観光バス6台分の乗降場所があるが、バスが車道にあふれ、修学旅行シーズンの5月には多いときで1時間に80台も並ぶ。タクシーの列も重なり、3車線の半分が車で埋まる。

このため、市は駅前広場整備計画で、2015年度中に商業施設・京都アバンティ前に観光バス12台分の乗降場所を新たに設け、混雑を解消する方針を打ち出している。交通マネジメントシステムの導入もこの一環。

計画では、アバンティ前から約2キロ南の阪神高速道路の高架下(南区東九条)の市有地を活用する。すでにバス40台と乗用車60台分の駐車場を整備しており、一部を観光バスの待機場所とし、バス業界に事前に周知して利用を促す。アバンティ前のバスの発車状況を把握しながら、待機場所に空き状況を伝え、順次バスを送る。

市歩くまち京都推進室によると、この方式は「ショットガン方式」と呼ばれ、導入した千葉県のJR駅前や仙台市の繁華街では待機タクシーの解消策につながっているという。

同室は「混雑解消を事業者も自らの問題として取り組み、ともに知恵を出し合っていきたい」とし、今後、導入に向けてバス業界や府警などの関係機関と協議する。

門川市長は大道義知議員(公明)の質問に答え、「南口駅前広場のように限られたスペースしか確保できない乗降場の入庫待ち車両対策には有効な方法だ」と述べた。

(今川敢士)

京都新聞社 The Kyoto Shimbun Co.,Ltd.
©京都新聞社 無断複製・転載を禁じます